

小郡市学力向上推進委員会、小郡市ICT教育推進委員会を開催しました。

9月30日（金）に「小郡市学力向上推進委員会」、10月3日（月）に「ICT教育推進委員会」を開催しました。学力向上推進委員会では、「小郡市の児童生徒の学力の実態分析」や「ICTを活用した授業改善」について、ICT教育推進委員会では、小郡市ICT教育推進校である「大原中学校の実践報告」や「ICT教育に係る小中学校の円滑な接続等についての協議」を行いました。協議は中学校区で行い、各学校の取組や課題等について熱心に協議が行われました。

小郡市ICT教育推進ロードマップでは、9月以降の目標を「正しく使いこなす」から「効果的に使いこなす」としており、授業等での効果的な活用や小中学校の連携した取組等を推進していきたいと考えています。

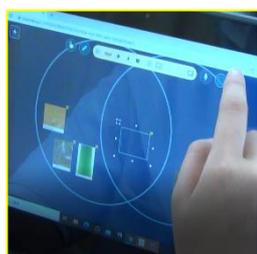
「チーム学校として推進するICTの効果的活用」（大原中学校の実践報告より）

■ 大原中学校は令和3年度から「小郡市ICT教育推進校」として、また令和4年度より県の事業である「情報活用能力向上事業実践校」として、小郡市のICT教育をリードしていただいている学校です。

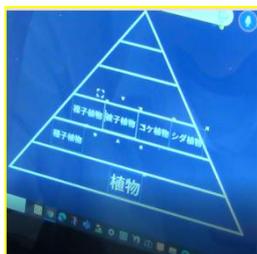
校内研究の研究主題を「考える力を育む学習活動の創造～（目的）（場）を明らかにしたICTの活用を通して～」とし、学習指導案にICTを活用する「目的」や「場面」を明記するなど、「効果的に使いこなす」ための取組を全教職員の共通理解のもと、実践を重ねていただいています。

理科「植物のなかま(植物の分類)」(1年)

【ベン図】



【ピラミッドチャート】



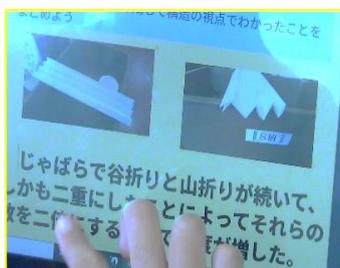
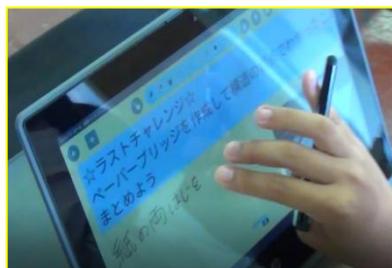
【パターンチャート】



植物のなかまごとの分類をする目的で、生物を分類するための観点や基準を見出して表現する場でロイロノート「シンキングツール」を活用しました。

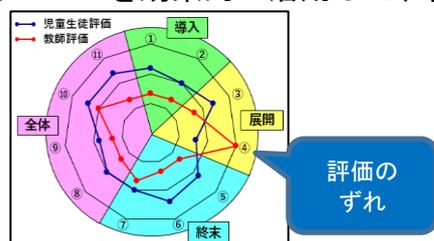
シンキングツールは教師が指定するのではなく、着目した観点や基準に合うものを生徒自身が主体的に選んで使いました。

技術科「材料と加工（ペーパーブリッジ）」(2年)



製品を丈夫にするための方法を理解する目的で、ペーパークラフトを使って丈夫な構造について調べたことをまとめる場で、ロイロノートを活用しました。生徒自身が手書きかタイピングかを選んで、分かったことについてまとめました。

■ 授業評価においてもICTを効果的に活用して、授業改善が図られています。



※数値は実際のものとは異なります。

福岡県が作成した授業チェックリスト（生徒用・教師用）をタブレットに入れて回答しました。

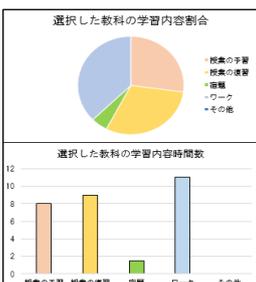
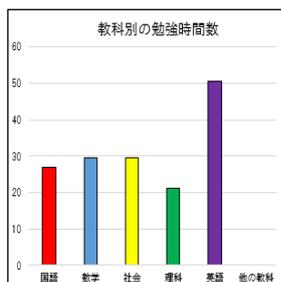
生徒と教師の評価のずれから要因を分析し、授業改善の糸口を見出すことに活用しています。

- 家庭学習や生徒会活動においても、ICTを効果的に活用して、生徒自身が主体的に学びを深められるような取組がなされています。

【家庭学習】

Forms で回答し、蓄積されたデータから家庭学習状況を視覚化

※蓄積したデータは教育相談で活用



【委員会活動】

学習委員会では、生徒が試験対策問題を作成し、ロイロノートを使って配布



今後は、大原中学校をはじめとする各学校の効果的な取組を小郡市の学校全体で共有、実践するとともに、中学校区の9年間を見通したICT教育の推進を図っていきたいと考えています。

《各委員会に参加された先生方の感想》

【ICTを活用した授業改善について】

- 研修や先生方のこれまでの実践を共有していく中で、子ども達にとってよりよい支援の在り方や、学びにつながる効果的な活用の仕方を明らかにしていく必要があると思いました。また、ICT活用について教科や学年でのロードマップの作成につながられたらと思います。
- 小学校と連携して、9年間を見据えたプラン作成により、どの先生方が授業されても、生徒の情報活用スキルが向上していくようにしなければならぬと思いました。

【実践報告で参考になった点、自校で実践してみたいこと】

- 目的を明確にして、学校全体で推進していくことの大切さを再認識しました。目的や場を明確にすることで今後の“効果的に使いこなす”に近づけるのではないかと考えました。
- 校長先生が生徒一人ひとりにタブレットを手渡しされる「タブレット授与式」は、生徒に“自分の端末”という意識を持たせるための大変効果的な取組だと思います。校内でも提案してみようと思います。
- 過去問を資料箱に入れて、子どもがいつでも取り出して自ら取り組めるようにしておくことは、すぐに取り入れ実践しようと思いました。

【小中学校の円滑な接続のために必要なことについて】

- 小中で連携する今回のような研修の場はとても効果的だと思うので、今後も実践を持ち寄り、悩みを相談したりできるといいなと思いました。
- ICTの活用について、お互いに小学校任せ、中学校任せにならないように、「どんな目的（視点）」でICTを活用するか一緒に考えていきたいと思っています。
- 習得させたいスキル、継続的に使いたいソフト、アプリ等を小・中学校で協議し、有意義なICT教育を進めたい。
- 同じ中学校区でどのような取組をしているか交流する場が必要だと思います。また、中学校に入学するまでにどの程度のスキルを習得しておいたほうがよいかを中学校側から聞き、できるか、できないかを話し合うべきだと思います。

大原中学校 教頭 早田 恵美 (小郡市ICT教育推進委員会副委員長)

ICT教育推進委員会では、学力向上にICT機器を活用する取組や、主体的な子供の学習活動を促す活用など授業改善につながる取組が各校から報告されています。わずか1年という期間で「まずは使ってみる」という段階から、目的に応じて「効果的に活用する（使いこなす）」段階へとICT活用が進展しつつあるようです。

本校では、ICT教育推進委員はもとより、各教科の先生方がそれぞれに授業での活用に取り組むとともに、子どもたちも生徒会活動等で主体的に活用する姿が見られるようになってきています。

今後は、小中9年間の学びを通じた情報活用能力の育成を視野に、小中で連携して授業公開を行い、指導計画を構想していくことが大切だと思っています。